

学校教育目標	豊かな感性を養い共に生きる子 ・学び合う子 ・認め合う子 ・きたえ合う子				
	知 課題をみつけ、自分の意志で解決に向かうための学び合いができる子を育てます 徳 自分のよさやもっている力を発揮し、お互いの個性を認め合える子を育てます 体 心と体を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます 公 地域の人やものを大切に、共に生きる子を育てます 開 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます				
学校概要	創立 74 周年	学校長	副校長	2 学期制	一般学級：13 個別支援学級：2
	児童生徒数： 人		主な関係校： 瀬谷中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	瀬谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分自身を高めていく力	瀬谷中学校 瀬谷小学校 大門小学校	人との関わりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる児童・生徒 ・瀬谷中ブロックの子ども像実現に向けた小中一貫カリキュラムの作成 ・推進委員会の開催のもと、各部会の組織的な運営と連携 ・学校運営協議会を設置し、地域とともに児童生徒を育てていく体制づくり

中期取組目標	<p>○子ども一人ひとりを大切に、活力と笑顔あふれる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の学習状況を把握し、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・問題解決的学習を意識して、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが互いのよさを認め合い、自己有用感のある楽しい学校生活を過ごせるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。 ・まちの「人」とのつながりや中学校との連携を意識し、豊かな体験を通して、地域全体で、まちを愛し生きる力のあふれる子どもを育てます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①日常生活の中で、自ら考え、主体的に行動する子の育成を目指し、学習の中で自分の学びを振り返り、調整していく力の育成を狙った授業改善に取り組む。②6年間学習を積み重ねていくための、家庭学習の習慣化やICT活用の指導などを上瀬谷スタンダードとも連携させて組織的、段階的、系統的に行っていく。
担当 重点研推進委員会・学力向上委員会	
徳 道徳教育	よりよく生きていくためにになりたい自分を思いえがき、自分で考えて判断することや目標に向かって粘り強く努力すること、相手の立場に立って考えること、クラスや学校など、集団の中で自分の役割を果たすことの良さ等について、教科等横断的に学んでいくことができるよう、年間指導計画を活用して意図的計画的な指導を行う。
担当 道徳部	
体 健康教育	①家庭・学校・地域の中で安全で健康に生活していくことができるよう、防災、保健、食育の面から発達段階に応じた指導を計画的に行っていく。②体力を心と体の健康を保とうとする力ととらえ、保健や体育の授業における学習や休み時間の過ごし方の充実を図っていく。
担当 防災・安全・保健・体育部	
公開 自分づくり	①委員会や児童会活動、異学年交流の場を、学習の中で身につけた力を生かし、よりよく生きる自分に向かっていく実践の場であることととらえ、自己有用感を味わえるような指導や声かけを行っていく。②地域に学び、働きかける機会を積極的に設け、自己有用感を高めるようにする。
担当 特活部・異学年交流委員会	
いじめへの対応	定期的にいじめ防止対策委員会を開き、「気になる子、困っている子」の情報を共有して注意深く見守っていくようにする。また、学校カウンセラーやSSWを活用していくことを積極的に推進し、多様な視点で保護者や児童の不安や心配に寄り添っていくことができるような組織づくりを目指す。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	学校組織を一新し、学校教育における児童の学習と生活、GIGAに関わる三つの面について取り組む部会からなるA部会を組織する。全職員がA部会に所属し、主体的に行動する子どもの育成に向けて必要なことを話し合い、学校運営に関わっていく意識をもつ。また、教務部がそれぞれの役割を把握し、調整しながら円滑な機能を目指す。
担当 教務部・メンターチーム	
地域学校協働活動	学校運営協議会、学校懇話会、学援隊総会を開催し、学校の教育活動を保護者・地域に広く理解していただくようにする。また、生活科や総合的な学習の時間などの学習を充実させていくための材についての情報交換や、職員や年度が変わっても材にかかわる人とのつながりを保ち、地域の中で子どもが育つ学校づくり・カリキュラムづくりを目指す。
担当 教務部	
人権教育	各学年の実態や発達段階に応じて、人権的な視点を広げる。人権に対する意識を高めていくことができるよう、職員を対象とした研修や、児童に向けた学習の実践を行っていく。他教科との関連によって、理解を深めたり、知識を広げたりすることも計画的に行っていく。
担当 人権福祉委員会	
児童指導	今年度より一新した上瀬谷スタンダードを活用し、主体的に子どもが考え、判断して学校生活を送ることができるような指導・支援の在り方を探っていく。職員会議での児童指導についての情報交換の場を活用し、スタンダードの活用のしかたや児童への指導・支援のあり方について、全職員で情報を共有し、更新していくようにする。
担当 児童指導部	
特別支援教育	個別の支援計画を活用し、これまでの児童の成長や課題を理解した上で児童や保護者の思いに寄り添っていけるような指導・支援のあり方を考えていくようにする。子どもの困り感に気づき、寄り添っていけるよう、低学年教師による高学年学力サポート、YPやMIM、コグトレなどを計画的、組織的に活用して実態の把握に努める。
担当 特別支援委員会・児童指導部	